

浸水ひなん地図の目的

本市では、放流先河川の能力に応じて、おおむね1時間雨量67mmの雨に対応できるように市街地の河川及び下水道の整備を順次進めています。

しかし、全国的に局地的な大雨などによって大規模な浸水被害をもたらす水害が年々増加しております。本市においても平成15、16年に整備水準を超える大雨により床上、床下浸水などの大きな被害が発生しており、雨の降り方によっては、施設の整備だけでは対応が難しくなってきました。

こうしたことから、まず地域の皆様が、大雨による浸水の発生しやすい区域や浸水深を把握していただき、日ごろから大雨に備えるために活用していただく目的で「浸水ひなん地図」を作成しました。

浸水ひなん地図とは

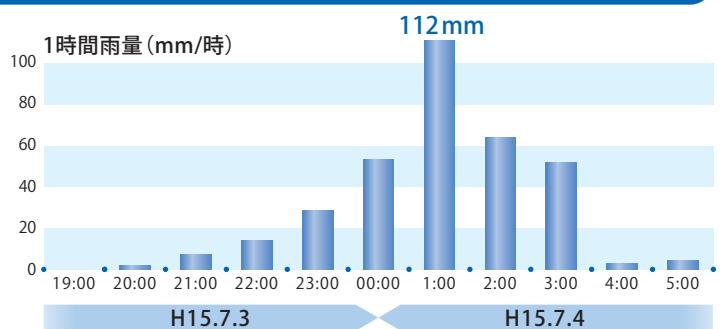
浸水ひなん地図は、河川のはん濫がない場合を想定しており、下水道の雨水排水能力を上回る降雨が生じた際、下水道の能力不足や河川の水位が上昇し雨水を排水できない場合に浸水の発生が想定される区域と深さを表示するとともに、浸水への対応や避難場所などを記載したものです。

浸水ひなん地図の想定条件

- (1) 河川や下水道施設等は平成24年3月末時点の整備状況を反映しています。
- (2) 想定を超える大雨が降った場合や、巴川・支川のはん濫等は考慮していません。
雨の降り方によっては、実際の浸水区域が広くなったり、浸水深が深くなったりすることがあります。
また、幅600mm以上の水路などを対象としており、道路側溝などは考慮していませんので、実際の浸水区域が、広くなったり、深くなったりすることがあります。

浸水ひなん地図の想定降雨

想定降雨は、平成15年7月3～4日に静岡地方気象台で観測した時間最大雨量112mmの降雨であり、下水道の整備水準（時間最大雨量67mm）を上回る大きな降雨です。また、この降雨が実際に降った当時は、巴川のはん濫は発生しておりませんが、浸水被害（内水はん濫）が発生しました。



浸水ひなん地図の作成について

今回作成した浸水ひなん地図は、巴川流域のうち、平成24年3月に浸水ひなん地図を作成した区域以外の地域について作成しています。

今後、浸水ひなん地図は、市街化区域を対象として順次作成・公表していきます。また、浸水対策の整備が進んだ場合や流域の状況に変化があった場合には、見直し（更新）を検討していきます。

用語の説明 下水道：この浸水ひなん地図では、水路や地下水路など雨水を流す施設を言う
はん濫：大雨により河川や下水道から水が溢れること。